

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 平岸 あじさい		
所在地	札幌市豊平区平岸5条1丁目1番26号		
自己評価作成日	平成26年6月1日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 7 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は道内4カ所にグループホームを展開しており、当ホームは12年目を迎えています。本部の統括部門では、運営理念に沿ったケアサービスを各ホームが日々実践出来る様に協力体制の充実を図り、月1度の職員研修や管理者合同会議を開催する等、職員の働きやすい環境作りとより質の高いケアを目指し取り組んでいます。管理者と職員は、利用者との馴染みの関係を築いて一緒に過ごす時間を大切に、利用者一人ひとりのニーズに応えたいと、きめ細かなケアサービスに努めています。職員のチームワークは良好で、1ユニットのみではなく、3ユニット全体で利用者の情報を共有し、相互協力の下、利用者本位に支援しています。介護計画や日々の記録も工夫を凝らし、詳細に記載されています。協力医とは24時間連絡体制が整備され、終末期ケアにも取り組み、家族の安心と信頼に繋がっています。地域との関わりも、子供神輿や花火大会、小学校行事への招待、中学生の職業体験やボランティアの受け入れ等、相互交流に努め、利用者が、穏やかで楽しく暮らせる様に支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほぼ周知されている。理念以外にも独自に理念を踏まえた目標を毎月掲げ、細かく取り組むようにしている。ユニット内でも目標について話し合いが行われている。	法人共通理念を全てのケアサービスの根幹として意識付けし、朝夕の申し送り時に唱和し、理念を共有しています。理念の具現化に向け、ユニット毎に目標を掲げ、更に個人の目標も掲げて、職員間で話し合い、質の高いケアに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加した際には、地域の方々の方から話しかけてもらったり、普段の何気ない散歩などの際にも気軽に声をかけてもらっている。又、職員のみで会っても顔なじみの関係ができています。	開設から12年目に入り、着実に地域に根付いています。近隣住民が野菜や花を届けに来たり、歌や講話のボランティアの訪問があります。町内会行事、ホーム行事に相互参加し交流を深めています。中学生の職業体験の受け入れにも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの場を活かし、認知症の人の理解や支援の方法を理解してもらえよう働きかけているが、それ以外にも地域の人達に働きかける場面を増やせるよう模索している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方の日常生活について、現場の職員が運営推進会議に出席し話しをする場面があり、出席した方から様々な意見を頂くことで職員も新たな気づきがあったりとサービス向上に繋がっている。	利用者、家族、町内会役員、民生委員、老人会役員、地域包括支援センター職員に新たに一般職員も交代で参加して活発な意見交換が行われ、意見、要望を汲み取り、運営に反映させています。議事録は、全家族に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に密に連絡を取り、良好な関係が築けていると思われる。困難事例などの場合、更に連絡を密に取り、アドバイスなども頂いている。	管理者は、市の管理者会議や区の連絡会等に参加し情報交換しています。また、市主催の研修会にも参加し、サービス向上に活かしています。里の家だよりも配布し、ホームの様子を伝えています。介護保険課や生活保護課とは、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の研修で定期的に拘束について取り上げられており職員にも考える機会が設けられている。外部の研修にも積極的に参加している。又、施錠については可能な限り施錠をしない環境作りを行っている。	職員は、身体拘束の弊害について外部研修や内部研修にて学び、理解を深めています。日々の介護や声かけでは、行動抑制に繋がらないケアに取り組んでいます。日中に施錠する時も有りますが、利用者の外出には閉塞感を与えない様に十分配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に虐待についても事業所内で定期的に研修で取り上げられ学ぶ機会が多い。日常の中のケアにおいても虐待に当たらないかユニット内で細かな話し合いが行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方がいた。年々、様々な制度を利用している方が増えているので身を持って学ぶ機会となっている。内部研修でも取り上げられている為、知識は深まっていると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を設け、家族の疑問や質問に対し説明を行っている。入居後も、不安や疑問点があれば、随時、理解や納得頂けるよう改めて説明して、不安等が軽減できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には職員から最近の様子を家族に伝え、その際には家族からの意見なども何うようにしている。それらは文章に残し、職員全員が情報として閲覧できるようになっており、運営に反映されている。	家族の来訪が多く、特に管理者は家族の都合に合わせて、話し合いの時間をもち、悩みや要望の汲み取りに努めています。家族からの意見、苦情、要望等は「家族対応記録簿」に記載し、職員間で情報の共有を図り、運営に反映させています。遠方の家族にはEメールや電話で情報を提供し、共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	例え、報告する時間が遅くなったとしても意見や提案を気軽に管理者に聞いてもらうことができる体制になっており、様々な形でその意見が反映されている。	管理者と職員は、日常から率直に話し合える関係を築いています。常に管理者が窓口となり、職員の悩みや要望を聞き取り解決に向けて取り組んでいます。本部職員の来訪も多く、各種会議に同席し、職員の思いや意見、提案を聞き取り、事案によっては、本部に持ち帰り検討し運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に条件や環境の希望は様々であるが可能な限り、希望に沿うよう努力しており、それに対し職員は自分の力を最大限に発揮できるよう向上心を持って職務にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修が実施されており、個々の力量に合わせて参加できるようになっている。更に日々の実践の中でも先輩となる職員から様々なアドバイスを受けながらスキルアップにつなげられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のホーム間同士の交流がある。食事会なども行っている。ホーム間の異動もある為、異動後も積極的に交流を図り情報交換を行うなどしサービスの向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族にこれまでの生活の様子を聞き、入居後は、本人の話しや様子から困っていることを汲み取り、可能な限り寄り添い、職員が団結して統一したケアを行い安心できる環境を整えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をよく聞くことで、まず安心感を持ってもらえるよう努めている。本人が慣れるまでは家族は不安に感じる部分が多いと思われるので、こまめに様子を伝えたり、話を傾聴したりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、職員の意見をすり合わせ、本人がどこまで出来るか見守りや関わりの中から見極め、本人にとって現在必要となる支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意分野を生かしてもらい、生活する中で活躍してもらえるよう働きかけている。お互いに思いやりの気持ちが芽生え、いたわり合う関係ができていく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例えば遠方に居る家族より必要な物品を郵送してもらい、受け取った本人の嬉しそうな表情を家族にメールで見てもう取組を行っている。本人と家族の橋渡しではメールでのやり取りも増えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や管理者にも協力してもらいながら、本人の馴染みの人に会えたり、行事や買い物等を利用して以前に住んでいた地域に行けるような支援を継続的に行っている。	利用者の要望に応じて、昔住んでいた周辺のスーパーや公園等への外出は、行事やレクリエーションを活用して支援に努めています。知人、友人の来訪は、必ずキーパーソンの承諾を得てから受け入れております。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	危険が無い限りは入居者同士が交流を図っている時には職員は見守りをしている。他者との交流を図ることが難しい方は孤立しないよう職員が間に入り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもメールのやりとりや写真を郵送し、世間話や思い出話ができたり、これまでの築いてきた関係性を大切にできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	遠慮し、希望を伝えてもらえない方には、職員とゆっくり話をする時間を設けたりしながら、その方の思いをさりげなく聞くように努めている。又、その方の様子を見ながら汲み取るようにしている。	アセスメントや家族からの情報を基に、一人ひとりに関心を持ち、コミュニケーションを取りながら思いや意向の把握に努め、3ユニット全体で情報を共有しています。把握困難な時は、バイタルチェック表を参考に、表情や仕草から希望や思いの汲み取りを行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に利用者様の入居前、入居時等の情報を聞き取り把握に努めている。面会時等にも情報収集を行い、日常の中でも本人から聞き取りをしている。センター方式でのアセスメントに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の状況をもとに、個々の現況と照らし合わせ、職員間でも情報交換を行い、把握に努めている。高齢な為、日々の変化が多いこともあり、観察は丁寧に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で月に1度集まり会議を行い意見を積み、家族からも意見を伺っている。本人との会話や関わりから、さりげなくモニタリングしケアプラン作成に反映している。ケアプランは定期的に見直している。	センター方式のアセスメントを基に、日々モニタリングを行い、月1度のユニット会議や毎日のカンファレンス時に職員同士で話し合い、情報交換を行い、職員の意見や気付きに加え、本人、家族の要望、希望を反映した介護計画を作成しています。3ヶ月毎に見直され、急変時には随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録に記入し職員間で情報を共有できている。更に毎日の申し送りや月1回のユニット会議で細かい情報交換を行いながら、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人も家族も随時、ニーズは変化する為、柔軟に対応できるようにしている。病院受診や買い物、ドライブ、食事、外部のボランティア、理容など様々な場面で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の好みを把握した上で町内会の行事に積極的に参加し、地域の方と交流できる場面を作ったり、外部のボランティアを活用しホーム外でも安全に豊かな生活が送れるよう働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、本人の希望するかかりつけの病院を受診したり、専門病院を受診できるよう随時対応しており適切な医療が受けられている。	協力医の往診は2週に1回、歯科医や皮膚科も週1回の割合で実施されています。かかりつけ医や専門病院の受診は基本ホーム対応で支援し、随時家族に報告しています。週1回の訪問看護師による健康管理が行われ、協力医とは24時間連絡体制が整っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護を受けている。その際には事前に各入居者の方について細かな情報提供をFAXで行い、追加事項については当日に口頭で伝え、相談している。何かあれば、すぐに相談できる体制ができている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した後は主に管理者が病院関係者と連絡を取り合い、早期の退院ができるよう情報提供をしている。入院後は職員が交代で見舞いに行き、ホームでも近況を伝えあっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に合わせて家族と話し合いの場を持っている。協力病院、訪問看護ステーションと連携し、本人や家族が望むよう可能な限り対応している。それに即し、ホームで看取りを行うこともある。	重度化や看取りに関する対応指針は明文化され、入居時に説明を行い、同意を頂いています。既に、3例の終末期支援を経験しており、カンファレンスや担当者会議にて話し合い、主治医、看護師、介護職員、家族と連携し、支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、全職員が周知している。訪問看護ステーションや協力病院に、わからないことがあれば質問し、職員の知識を増やすよう取り組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防の立会いの下、避難訓練を行い、アドバイスを頂き定期的に自主避難訓練を行っている。全職員が理解できるよう努めている。年々、地域の方の参加人数が増え協力してもらっている。	消防署指導の下に、昼・夜を想定した避難訓練を、年2回実施しています。訓練は運営推進会議日に合わせ、住民の協力と課題についての話し合いも行われています。更に、定期的に自主訓練も行い、家族には避難場所の事前通知を図っています。	ホームは、災害対策に十分配慮していますが、避難訓練は、訓練をする毎に課題は表出してきます。更なる取り組みとして、様々な災害や緊急事態に向けて、全職員（夜勤専門職員も含めて）が慌てずに避難誘導する方法と地域住民とも具体的な協力制を築く事を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな場面であっても、相手に対し思いやりを持って接し、尊厳を守れるよう対応している。特に排泄や入浴時にはプライバシーを損ねず、プライドが傷付かないような対応ができるよう努めている。	職員は、日常のケアサービスの中で入浴時やトイレ誘導時の声かけや対応等、利用者一人ひとりの状態に合わせてながら、誇りやプライバシーを損ねない様に、十分配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮している方には二人きりの場面を作り、さりげなく希望を聞いている。希望を伝える事が難しい方には様々な場面で選択肢から選べるような本を作ったりし自己決定に結びつけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に入居者のペースに合わせているが、どうしても都合がつかない時は時間をずらしてもらい、対応している。希望に沿うことで時間がずれてしまったとしても概ね理解してもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に身だしなみを整えられるよう毎日、支援している。特に女性入居者には化粧ができる環境を整えたり、マニキュアの色を選んでもらい爪のおしゃれを楽しんでもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し、調理、片付けを得意分野を生かして参加してもらっている。買い物時には同行した方の好みの食材を購入している。調理は冷蔵庫の中の食材から選んで調理してもらっている。	献立はユニット毎に、利用者の嗜好を考慮しながら、職員が作成しています。調理担当職員が配置されており、利用者の状態に合わせて工夫しています。利用者も得意分野を活かし、買い物や片付け等に参加しています。行事食や外食も取り入れ、変化を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示に従い食事量を増やしたり、水分量が増えるよう好みの形状で提供している。ムセの強い方にはゼリーを作り、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っているが、混乱していたり拒否がある方に対しては、本人の様子を見ながら状況に合わせて対応している。義歯洗浄やうがいがいだけでも行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、排泄パターンを掴み、トイレでの排泄に繋がるよう取り組んでいる。利尿剤が処方された方に対しては、今までよりこまめな誘導を行ったり、個々に合わせた支援をしている。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、表情や動作等を見極めながら、トイレでの排泄自立支援に取り組んでいます。利尿剤等を服用している利用者には見守りを強化し、早めの誘導を心がけています。衛生用品は、利用者の状態に合わせた種類を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれに合わせた予防法も取り入れている。毎日、楽しみながら身体を動かす機会が持てたり、料理なども工夫し提供している。下剤を服用している方が多い為、便秘の予防に力を入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日、入浴できるよう準備を行っている。入浴する時間も、個々の希望に可能な限り浴う形で支援できている。ゆっくりと本人のペースで入浴できおり、楽しみにも繋がっていると思われる。	利用者の体調に配慮しながら、週2回以上を目安に入浴支援しています。同性介助を基本とし、拒む利用者には、シャワー浴や清拭で衛生保持に努めています。入浴時は利用者の心も解れ会話も弾み、職員は触れ合いの中から利用者の思いの把握に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせて、こまめな休息が取れるよう様子を見て対応している。安眠できるようホットミルクを提供したり、季節に合わせた寝具、気温、湿度に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに従い、異動があっても支援方法は共通しており、確実に服薬できるようになっている。定期的に薬の内容を確認するよう自己評価でも取り組んでいる。日常的に変化にはこまめに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて張り合いとなるよう役割を持ってもらっている。(調理、盛り付け、片付け、洗濯物畳み、買い物、草木の世話など) 楽しみや気分転換にも繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望に沿うように努めている。普段、なかなか行けないような場所は行事として取り組んだり、個別に対応している。家族にも協力をお願いしているが、地域の方との外出する機会は現在は実施されていない。	ユニット毎に季節に応じた外出計画を立て、家族の参加協力を得て外出しています。百合が原公園や定山溪、花菖蒲園等へドライブを楽しんだり、猫好きな利用者は猫カフェに出かける等、それぞれに外出を満喫しています。日常的には、玄関前の花壇の手入れや日向ぼっこ、散歩等、体調に合わせて外気浴を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は概ねホームで管理しているが、買い物へ行った際には支払いをレジでもらったり、本人のお金を代行して支払った場合には金額を伝えたり、個々に合わせた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に電話はどのくらいの頻度や時間帯でも良いか家族に確認している。希望があった場合は速やかに対応するよう努めている。メールのやり取りをプリントし本人に読めるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの草花を飾ったり、折り紙やはり絵を作成し展示している。職員はもちろんだが、入居者も自ら草花の手入れをし、季節に合わせて折り紙を折り、壁に掲示しており、自分達の住んでいる家を居心地良くしようとする意識が高いように思われる。	リビングは車椅子や歩行器でも移動がスムーズに行える程、広く、ゆったりとしています。応接空間には利用者同士が寛げるソファやテーブルが配置され、食事を楽しむダイニング空間には食卓テーブルが配置されています。空調や換気、音、光等に配慮し、快適な生活の場となっています。ホーム内の随所に季節感の有る飾りや利用者の作品、行事で撮った写真、草花や観葉植物が飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前、ホール内、廊下等にソファを置き、それぞれが自由に気の向くままに過ごせる空間作りを行っている。他者と過ごしていたり、昼寝をしたりする姿が見られ良い空間作りとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物を持ち込むのはもちろんだが、入居後も、その方の好みや使いやすさを考慮し本人や家族と相談しながら物品を揃え、本人が過ごしやすい環境に近づくよう支援している。	利用者の意向や家族の協力の下に、馴染みの家具やベット、仏壇等が持ち込まれ、壁には絵やカレンダー、家族写真が飾られて、利用者それぞれの個性が活かされた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の希望に可能な限り沿えるよう職員はさりげない付添いや見守りを行い、その方の能力を活かせるよう接している。トイレなどの場所には表示したり理解しやすいようにしている。		